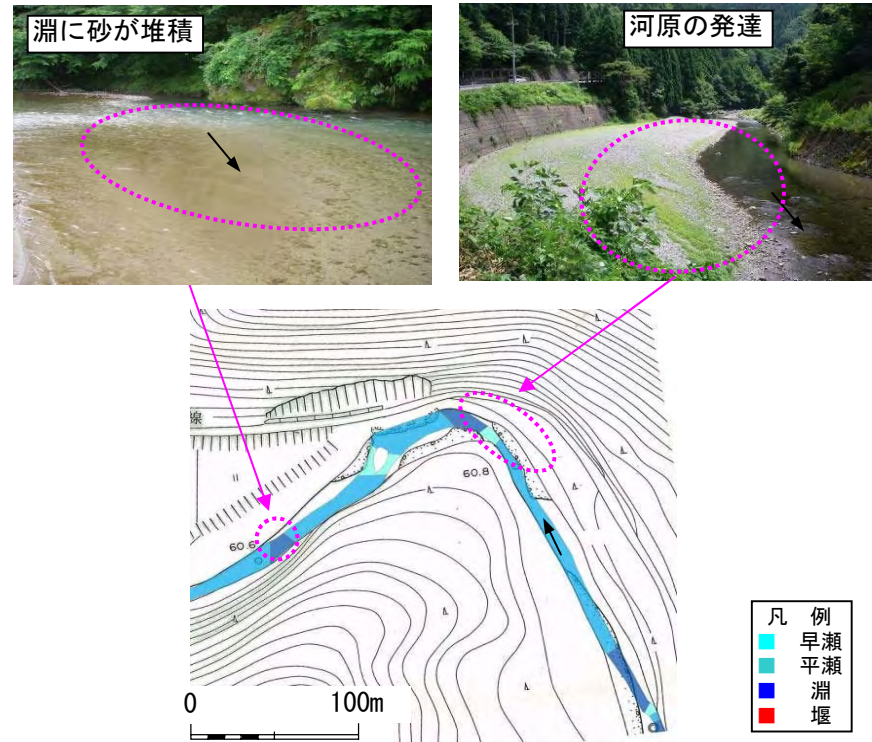
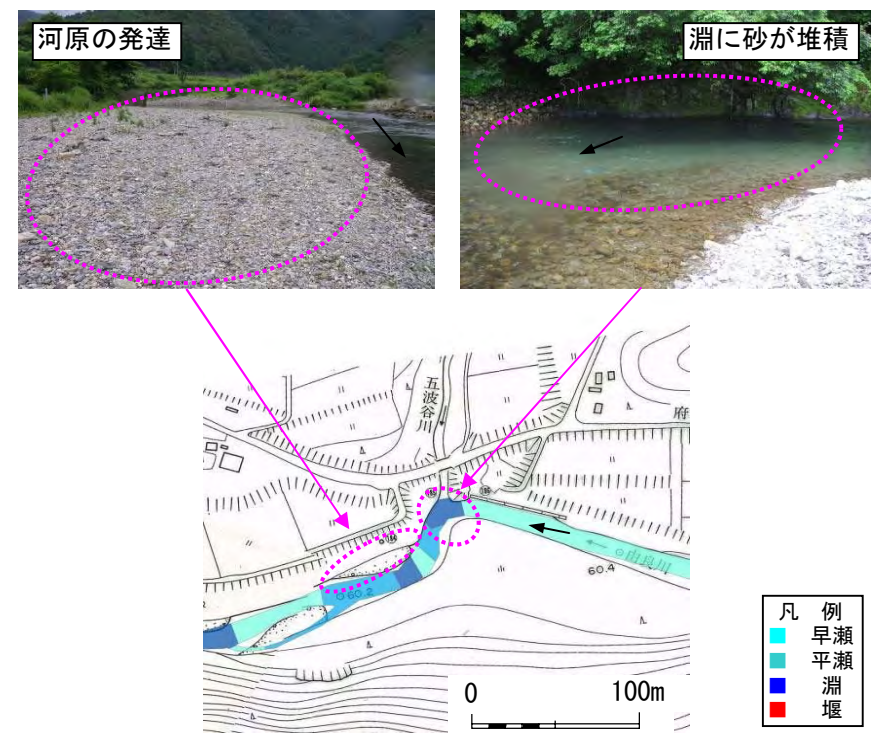


# ●土砂堆積状況

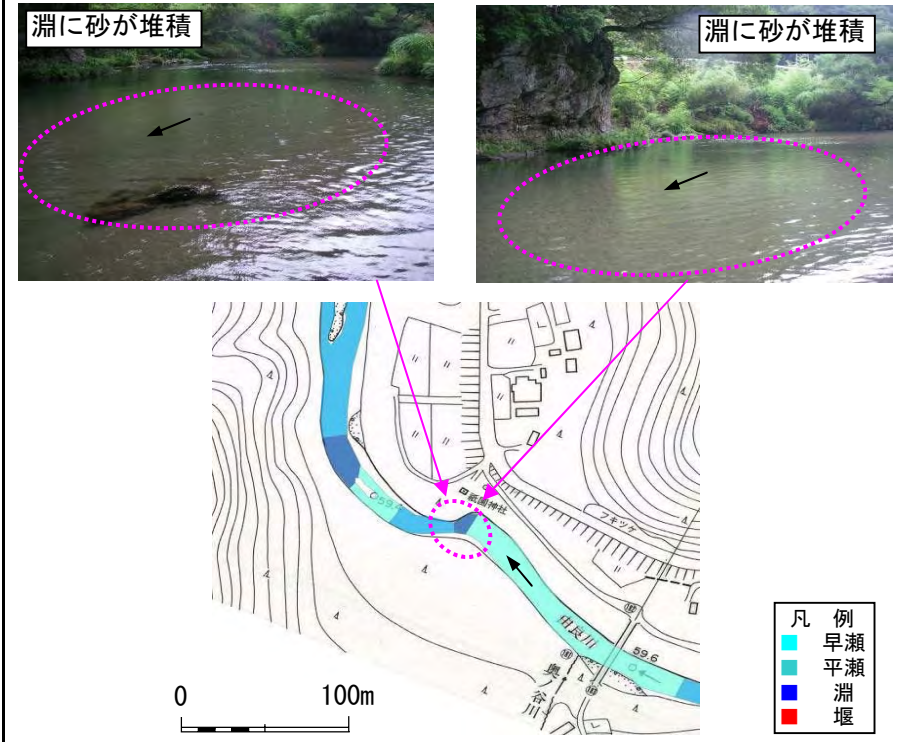
①五波谷川上流



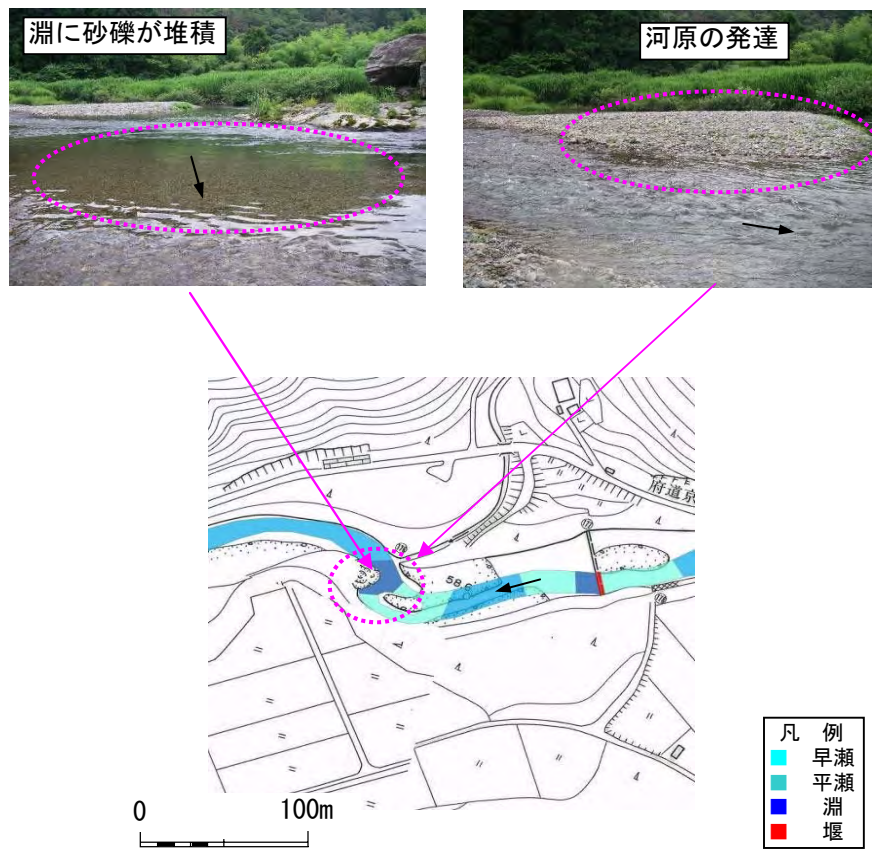
②五波谷川下流(カラスの淵)



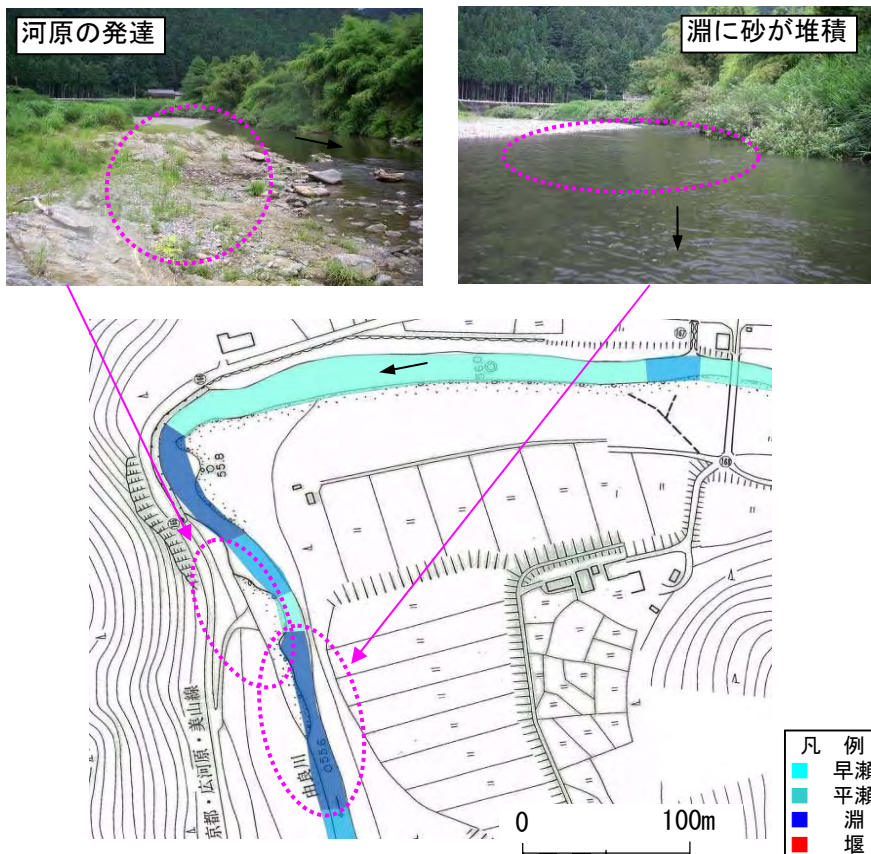
③田歌大橋下流



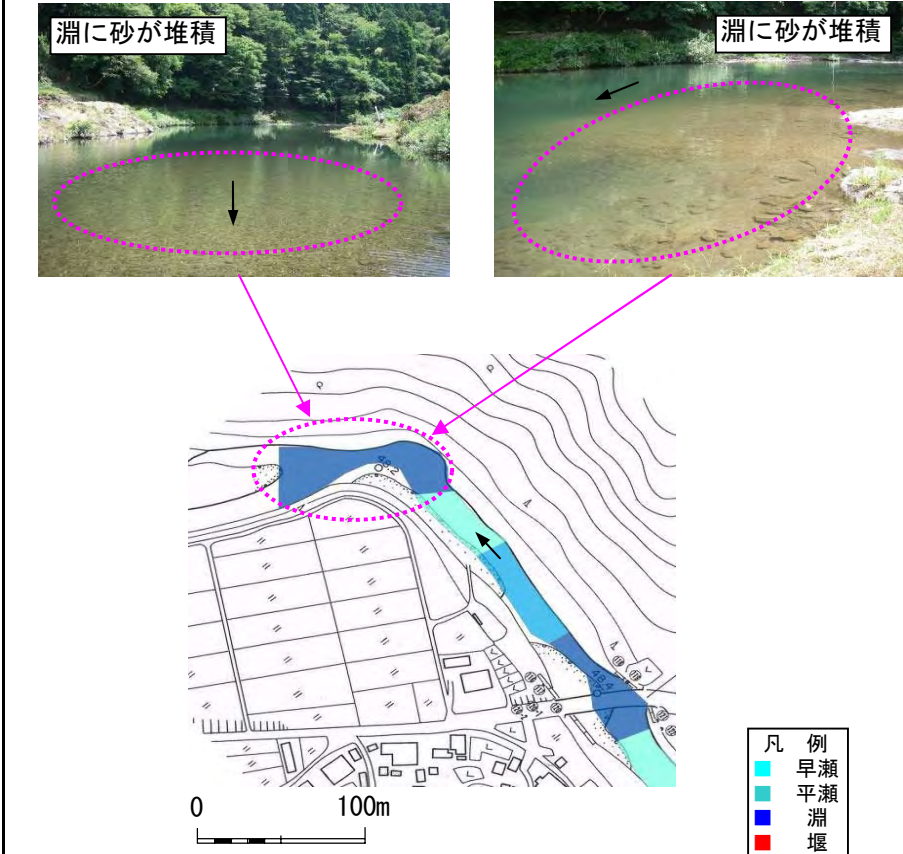
④伊藤谷堰堤下流



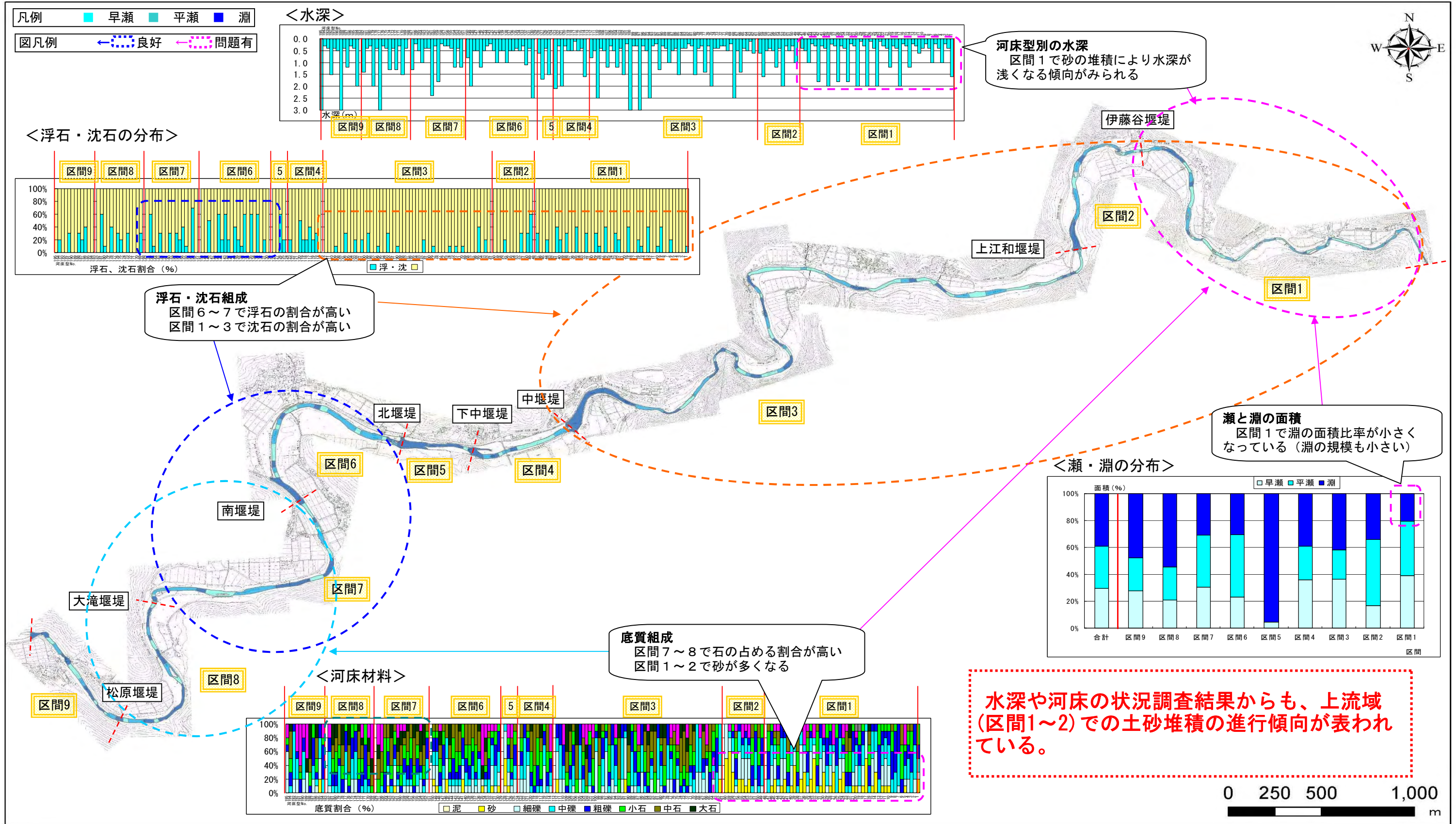
⑤黒田大橋下流



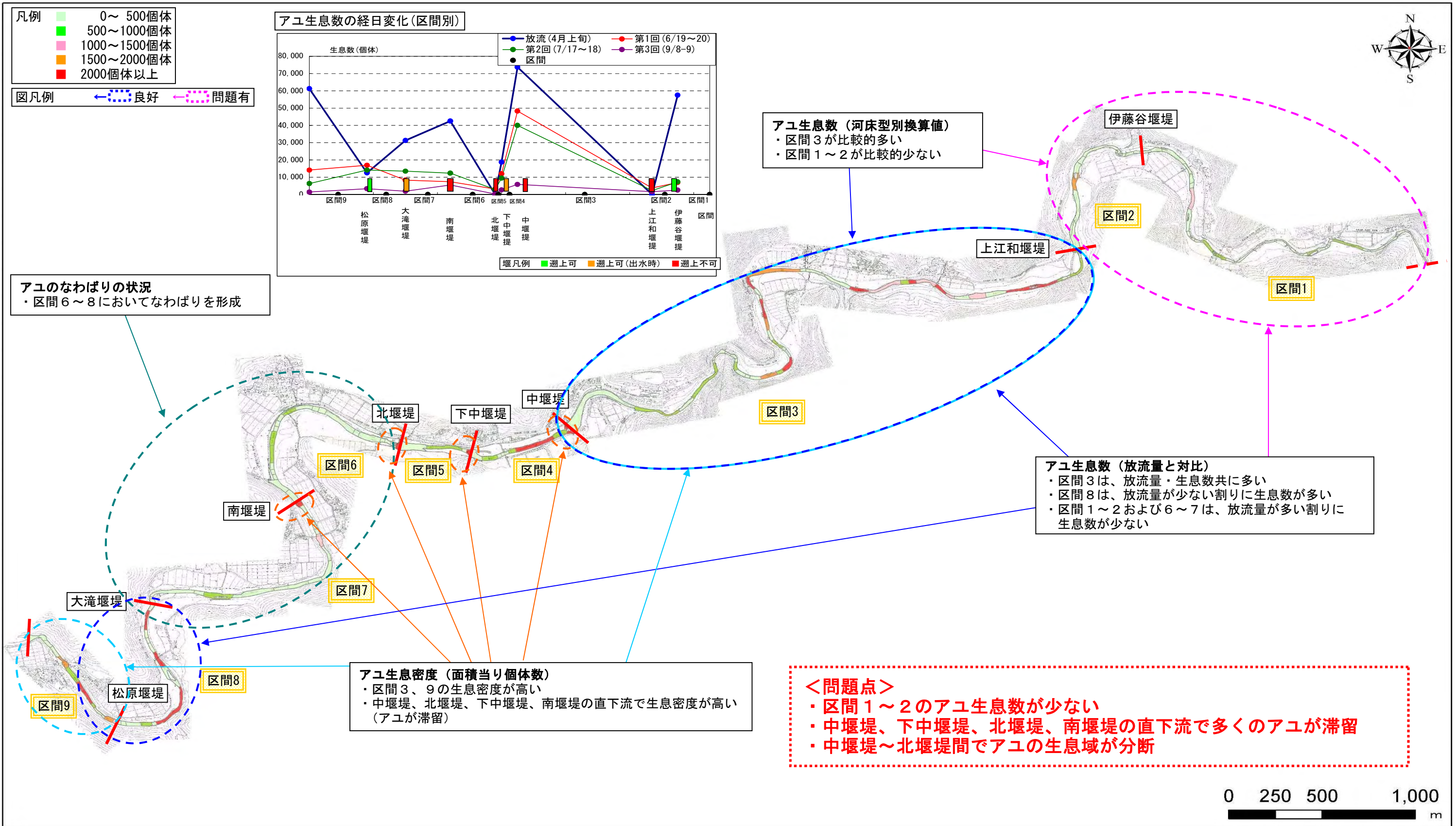
⑥野田橋下流(大内淵)



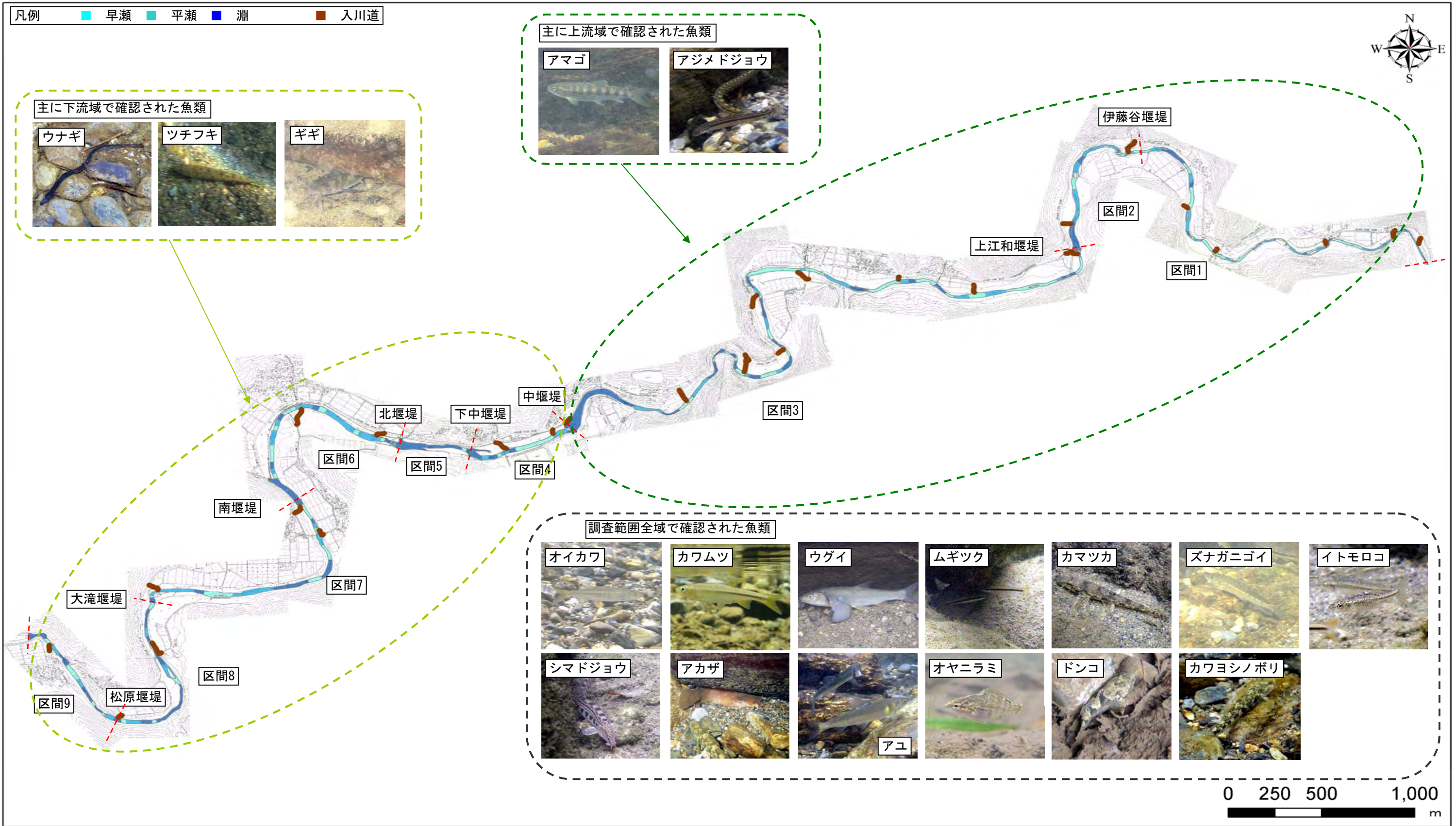
# ■瀬と淵の分布状況等



# ■アユ潜水観察結果 (6/19~20)



# 魚類確認状況



## 4. 美山川の課題と対策

### 1) 河道の分断化

対象区域には8基の落差工があり、そのうち3基には魚道が無く、落差工の段差が移動障害となっている。残りの5基には既設魚道があるものの、激流・流れの枯渇等により殆ど機能していない。

アユの生息範囲は、落差工間の狭い範囲に限定され、特に堰堤直下流に多く滞留している。また、アユの放流も落差工間の各地点に細かく配分されている。



①伊藤谷堰堤  
(現在は使われていないと思われる堰で破損している。段差があるため遡上の障害となっているが遡上は可能。魚道は設置されているが、水は流れていない。)



②上江和堰堤  
(堰の落差が大きく、遡上不可。魚道は機能していない。堰下流に土砂が堆積している。)



③中堰堤  
(魚道は設置されているが、平常時は水量が少なく遡上不可。出水時など水量増加時には遡上可能。突出型のため遡上魚は魚道入口を見つけれず堰直下流に迷入している。)



④下中堰堤  
(現在は使われていないと思われる堰で遡上不可。魚道が無く遡上が困難である。)



⑤北堰堤  
(河床安定のための床固め。魚道が無く遡上困難である。)



⑥南堰堤  
(堰本体および水叩きに大きな段差があり、遡上不可である。既設魚道は機能していない。)



⑦大滝堰堤  
(堰の落差が大きく、魚道もないため、遡上困難である。)



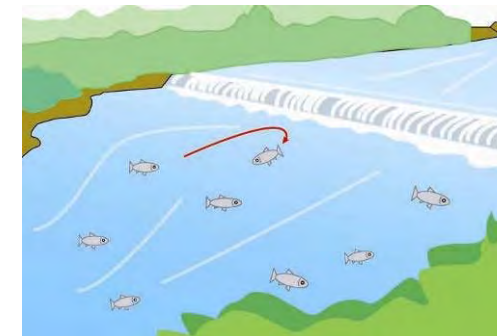
⑧松原堰堤  
(現在は使われていないと思われる堰で破損している。スリット部の流速が速く、下流側に魚が滞留している。既設魚道に水は流れていない。)

#### 【整備方針】

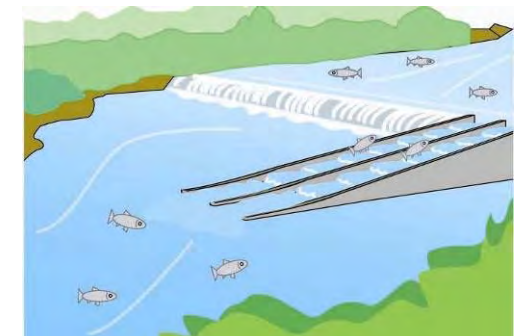
横断工作物により分断化された河道において、魚道等の整備を行い、魚類の遡上・降下が自由にできるようにする。

#### <改善イメージ>

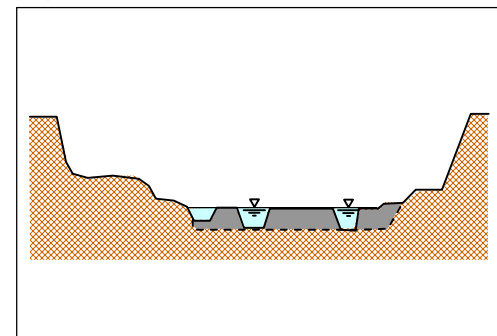
現在、堰などにより、魚たちが移動することが出来ない。



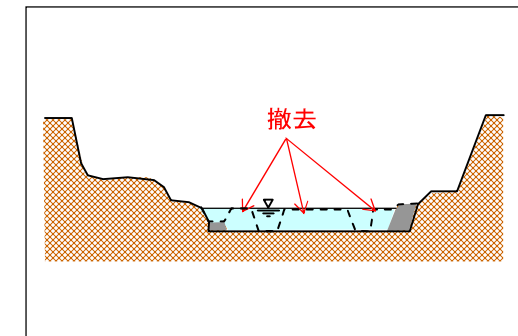
魚たちが自由に川を回遊出来るよう魚道の設置や改善を図る。



現在、堰などにより、魚たちが移動することが出来ない。



堰などを撤去することにより、魚たちが自由に撤去構造物の上下流を回遊できるようにする。



2) 土砂堆積による瀬・淵・河原の消滅

対象区間の上流域を中心に、土砂や砂礫による淵の埋没、河原の発達が見られる。そして、河川は浅く単調になり、魚類等の良好な生息環境が減少すると共に、河原が丘状に成長し、雑草の繁茂や樹林化の傾向が見られる。



五波谷川上流湾曲部  
(砂礫の堆積により河原が発達し、水面幅が非常に狭くなっている。)



田歌大橋下流湾曲部  
(比較的細粒の土砂が堆積し、淵が埋没している。)

【整備方針】

河道の掃流力バランスの最適化を図ることにより、土砂堆積を緩和させ、瀬・淵・河原等の生物生息環境の再生を図る。

3) 近寄りにくい川

かやぶきの里は、最大の観光名所となっているが、コンクリートの直立護岸となっており、そこに来た人々が川に近寄ることは困難



長除大橋上下流



【整備方針】

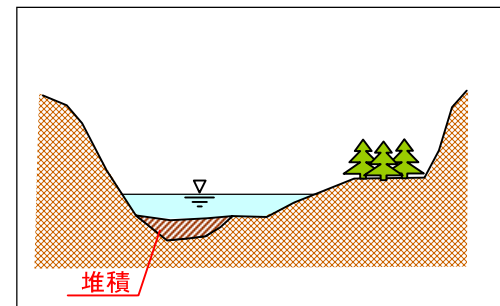
親水性の確保や周辺景観との調和のとれた護岸等の整備を行う。なお、整備にあたっては、魚類等の生息環境の保全・創出にも配慮する。

<改善イメージ>

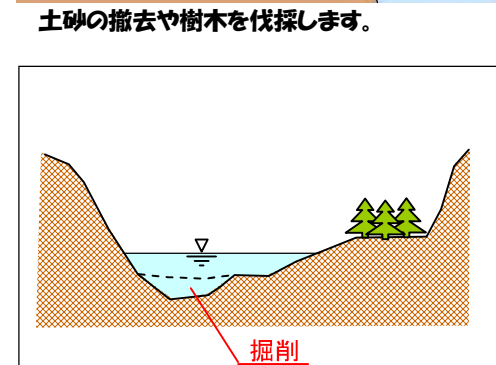
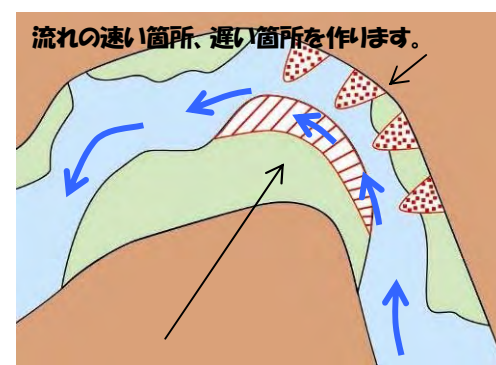
現在、土砂堆積等により、瀬・淵など魚たちの生息場が減少している



土砂が堆積し、樹木が生えています。

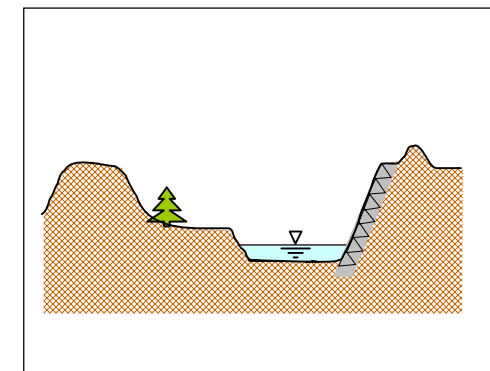


瀬・淵を再生し、魚たちが安心して生活できるようにする。

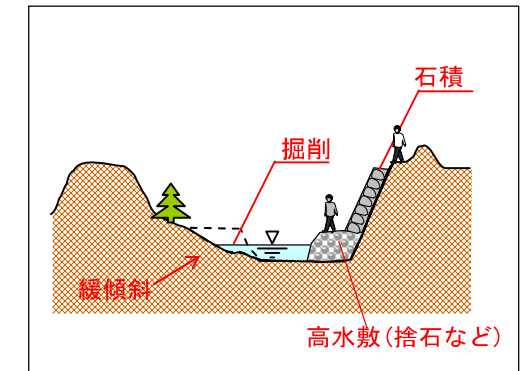


<改善イメージ>

現在、河川敷の散策など、水辺に近づくことが出来ない。



散策や水遊びなど、川と触れ合うことが出来るようになる。



## 5. 今後の方向性（期待されるもの）

